

## 宮城県及び山形県の連携に関する主な取組状況について (令和5年度)

令和6年7月

平成30年3月に策定した「新 宮城・山形の連携に関する基本構想 未来を共に創る 新MYハーモニープラン」では、これまでの成果や課題、両県を取り巻く社会経済情勢の変化、新たな連携の芽や可能性等を踏まえて「施策の4つの柱」を掲げ、その下に各般の施策を両県が連携し進めている。

### 〈主な連携取組〉

#### 〔1〕 相互の助け合いのもと、安全・安心で、多様な人材が活躍する「地域・暮らし」の実現

##### (1) 災害に強い防災先進地域の形成

- ・令和5年度防災訓練において、相互参加・参観により、応（受）援体制の確認を行うとともに、緊急連絡先の相互把握、訓練評価などを実施
- ・ドクターヘリの広域連携体制を構築し、両県間で31件の相互応援を実施
- ・家畜伝染病発生状況や防疫体制整備についての情報共有を実施

##### (2) 災害に強く持続可能な、自然と共生する暮らしの実現

- ・宮城県、山形県、福島県の自治体が参加する鳥獣害防止広域対策協議会に参加し、情報交換や市町村向けの助言を実施
- ・宮城県、山形県、福島県等の自治体が連携して、産業廃棄物の不法投棄等の監視や対応力強化のための合同研修会を実施

##### (3) 震災復興で活躍した若者をはじめ、誰もが活躍できる地域の実現

- ・仙台・松島地域及び村山地域における一層の相互交流を図るため、両エリアの市町村職員を対象に「仙山交流連携促進会議」、両地域の産物を生産者自ら直接販売を行う「仙山交流味祭」を開催
- ・最上（山形県）、雄勝（秋田県）、大崎（宮城県）の3地域が連携し、「東北のへそ」三県交流まつりやインスタグラムによる東北のへそフォトコンテスト等の魅力発信、誘客事業を実施
- ・宮城・山形未来創造会議の若者支援事業として、「みやぎ・やまがた若者交流フィールドワークツアー」を実施

#### 〔2〕 新たな発展の原動力となるインバウンドをはじめとした「観光・交流」の展開

##### (1) 戦略的なインバウンド推進による交流人口の拡大

- ・東北観光推進機構を中心に東北各県が連携して、オンラインセミナーや商談会、在留外国人を活用した情報発信等を実施
- ・中国や韓国における東北への勧誘客促進のため、現地旅行会社、インフルエンサーを招請して旅行商品造成、各種SNS等の媒体によって情報発信を実施

- (2) 多彩な資源と機能を活用した競争力の高い観光地域づくり
  - ・東北自動車道の利用者をターゲットにSAにおいて合同観光PRイベントを実施
  - ・農泊や農家レストラン、自然・文化体験等のグリーン・ツーリズム情報の発信、受入態勢を整備
- (3) 戦略的な海外市場開拓による輸出の拡大
  - ・両県の日本酒を取り扱う海外バイヤーを招請し、試飲商談会の実施や日本酒に関する勉強会、現地での試飲商談会等を実施
  - ・宮城県産の梨と山形県産のブドウを混載で仙台港からシンガポールへ輸出する実証実験を実施

### 〔3〕イノベーションの創出や成長期待産業の集積による活力ある「産業・経済」の振興

- (1) 世界最先端技術の研究開発拠点の形成と成長期待産業の集積
  - ・東北6県及び新潟県の産学官により組織された「とうほく自動車産業集積連携会議」が中心となり、自動車関連産業の集積促進に向けた活動を実施
  - ・山形県、宮城県、岩手県の工業系試験研究機関が連携し、共同研究と会議の開催により、技術レベルの向上と情報共有の実施
- (2) イノベーションの創出等による産業の活性化
  - ・東北情報通信懇談会におけるICT利活用セミナー等の開催

### 〔4〕国内外との大交流を進め、リダンダンシー機能を担う「交通基盤」の形成

- (1) 多様で重層的な環状交通ネットワークの形成促進等
  - ・災害時におけるリダンダンシーの強化や産業・経済などの交流基盤となるインフラ整備に向けた政府要望の実施
  - ・仙山線整備促進同盟会において、仙山線の利便性向上に向けた働きかけを実施
- (2) 東北のゲートウェイ機能を担う両県の港湾、空港の利便性の向上と機能拡充
  - ・各港湾の整備・振興を促進することを目的とし、東北地区港湾整備促進協議会において政府要望を実施
  - ・仙台空港国際化利用促進協議会の場で、プロモーションへの協力等への検討を実施